



# HOT SUCCESS!

## 導入事例

導入企業のご紹介

# GUNZE

グンゼ株式会社

<http://www.gunze.co.jp/>

資本金：261 億円  
 売上高（連結）：1,657 億円  
 （平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）  
 従業員数：連結合計 8,470 名  
 主な事業内容：インナーウェア、  
 パンティストッキング、ソックス、  
 パジャマ、ベビーウェア、婦人アウ  
 ター、ミシン糸  
 大阪本社：〒530-0001  
 大阪市北区梅田 1-8-17  
 大阪第一生命ビル  
 TEL：(06)6348-1313（代表）



■グンゼ株式会社  
 技術開発部  
 システム企画担当  
 神山 俊夫氏



■G&Uシステムサービス  
 株式会社  
 第一事業部 システム運用部  
 IT 利用技術・  
 PG グループマネージャー  
 濱本 哲朗氏

### サービスの概要

- サービス名称：情報セキュリティ実装・運用評価サービス
- サービス概要：情報システムのセキュリティ対策が適切かどうか、情報システムの実装および運用状況を情報セキュリティの視点から評価を実施
- 期間：本調査に 3 日間、報告書作成に約 2 週間

■日本ユニシス株式会社  
 共通利用技術部  
 ミドルウェア技術室  
 情報セキュリティG  
 担当マネージャー  
 鈴木 武俊



# 情報セキュリティ実装・運用評価サービス グンゼ株式会社 様

## 情報システム上の情報セキュリティ対策の現状レベルと 解決すべき具体的なポイントを示すことで 全社的な情報セキュリティの底上げを実現

### 実施の背景

ITセキュリティ委員会を設置して、社員の意識向上を目指す

個人情報漏えい事件が社会問題化する中で、グンゼ様では、抜本的かつ全社的な情報システム上のセキュリティ対策を立案・実施を計画。まずは、その中心となるITセキュリティ委員会を設け、2006年4月には「ITセキュリティ対策標準」を策定した。とはいえ、「ITセキュリティ対策標準」を策定しさえすれば情報システム上のセキュリティが強化されるわけではない。各部門にその重要性を周知徹底し、社員全員の意識を高めることが重要である。

そこでITセキュリティ委員会では、DIO（Division Information Officer）と名付けた責任者を部門ごとに指名し、さらに各DIOが複数の推進リーダーを任命するという全社的な推進体制を

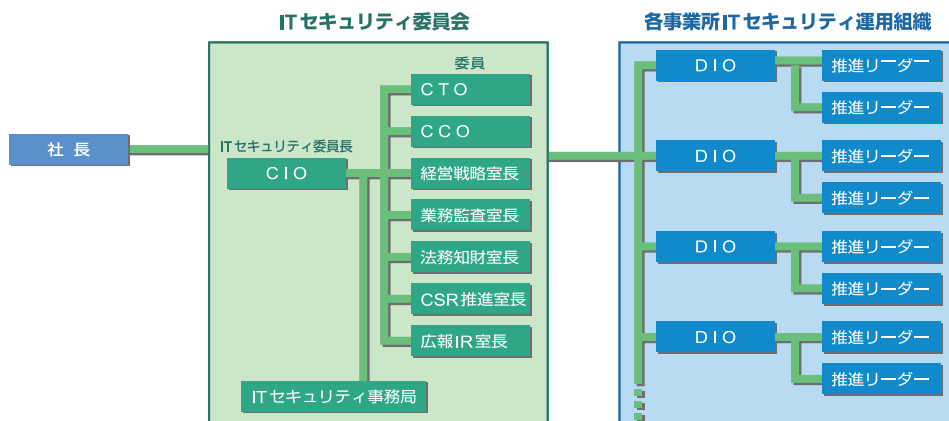
整えた。同時に、「ITセキュリティ対策標準」を実際に運用していく中で、現場の実情に合わせた見直しも図るなど、社員が励行しやすい仕組みを構築していった。

こうした取り組みを通じて、社員の情報セキュリティに対する意識は高まっていったが、CIOからは「現状の情報システム上のセキュリティ対策の実装と実運用について、客観的にどのレベルにあるのか知りたい」という意向が示された。また約1年半にわたって「ITセキュリティ対策標準」を運用してきた成果を確認し、足りない部分を補強するために、外部に依頼してベンチマークを実施することとなった。

### POINT!

- 自社の現状のセキュリティレベルを他社と比較したい
- 「ITセキュリティ対策標準」の成果を確認したい
- 「ITセキュリティ対策標準」の周知徹底を推進したい

### ITセキュリティ運用組織図



CIO：チーフインフォメーションオフィサー  
 DIO：ディビジョンインフォメーションオフィサー

CCO：チーフコンプライアンスオフィサー  
 CTO：チーフテクニカルオフィサー

## グンゼ株式会社 様

### 評価サービス選定のポイント

豊富な実績と高度なノウハウを持つ日本ユニシスのサービスを採用

ITセキュリティ委員会において慎重に検討した結果、多くのコンサルティング実績があり、マネジメント面および技術面において高度なノウハウを持つ日本ユニシスを、評価サービスの依頼先として決定した。

ITセキュリティ委員会では、日本ユニシスがさまざまな情報セキュリティ関連基準を基に、独自のノウハウを付加した評価基準を提供してきた実績を高く評価したのである。また、情報システム上のセキュリティ対策の実装および運用状況を評価する

だけでなく、課題の指摘や対策方法の提案にも大きな期待が持てた。

ITセキュリティ委員会の事務局サブチーフ濱本 哲朗氏は「今回の取り組みは、情報システム上のセキュリティ対策の現状をベ

ンチマークしさえすればいいというものではありません。その結果に基づいて対策を立てていく必要もあることから、日本ユニシスの経験と提案力に期待したということです」と語る。

#### POINT!

- 日本ユニシスのセキュリティ対策に対するノウハウ
- 豊富な意見に基づく評価基準のカスタマイズ
- 指摘ポイントの今後の対策面での的確なアドバイス

### 評価サービスの流れ

4つのフェーズを通じて、セキュリティレベルを明確化し、具体的な対策を提案

グンゼ様から評価サービスの依頼を受けた日本ユニシスでは、さっそく事前準備フェーズに入った。まず基本計画書を作成し、対象の情報システムや部門を明確化した上で、セキュリティポリシーなどを読み込んでいった。その結果を基に、ヒアリング計画を立ててキックオフミーティングを開催し、関係者の前で評価の趣旨や目的、調査内容、スケジュールなどについて説明した。

その後の予備調査フェーズを経て、2008年8月には3日間にわたる本調査を実施。情報システム部門、利用部門それぞれに対し情報システム上のセキュリティ対策の実装、運用状況をヒアリングするとともに、サーバーームやオフィスなどの現地視察を行った。調査結果は約2週間かけて、

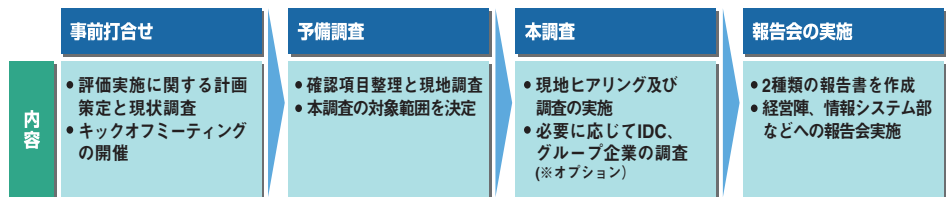
指摘事項やその対策を詳細に記載した詳細報告書（64ページ）と、報告会用に要約した簡易版報告書（30ページ）にまとめられた。9月には報告会が開催され、改善すべ

き点について具体的な対策を示すことで、情報セキュリティ実装・運用評価サービスのすべてのフェーズが完了した。

#### POINT!

- 4つのフェーズで、情報システム上のセキュリティ実装・運用状況を精査
- 2つの報告書で、評価結果を分かりやすく報告

#### 情報セキュリティ実装・運用評価実施概要



### 事例のポイント

- 今まで取り組んできた情報システム上のセキュリティ対策の成果と、現時点でのセキュリティレベルを把握するために、日本ユニシスの情報セキュリティ実装・運用評価サービスを実施。
- 情報システム担当者向けの詳細報告書と、経営層向けの簡易版報告書により、それぞれの立場で解決すべき課題を分かりやすく指摘し、具体的な対応方法を提案。

#### ● 日本ユニシス担当者からの一言

このサービスは、日本ユニシスの経験豊富なコンサルタントが、一般的な基準を基に企業環境に合わせた評価基準を作成し、その基準と現状を照らし合わせてセキュリティレベルを評価します。評価結果は、経営層にも理解し易くするため、レーダーチャート形式のグラフに置き換え、できる限り理解しやすい報告書を提出いたします。グンゼ様では、その報告を受け、自社のセキュリティレベルが可視化され、どの分野の対策が不足しているのかを理解できたことをとても喜んでいただいています。